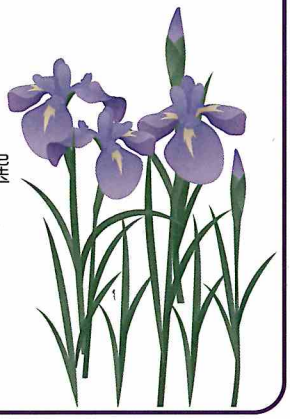
令和７年６月発行　　瑞穂まちづくり協議会

瑞穂まちづくり協議会だより 第21号

令和７年度の総会を開催しました。

令和７年度の瑞穂まちづくり協議会の総会は、５月１１日午後１８時から、みずほふれあいセンターで委員２６人出席のもと盛大に開催されました。はじめに鈴木定夫会長からあいさつあり、議事に入り令和６年度の事業並びに決算報告が提出され、その後委員及び役員の選任に移り、最後に令和７年度の事業計画（ウォーキング大会、小学校との連携行事・防災・防犯・交通安全対策や、史跡・文化財の案内版の設置など）並びに予算案が提出され、いずれの議案も原案通り滞りなく承認されました。



令和７年度 瑞穂まちづくり協議会 役員名簿（順不同：敬称略）

	役　職	人数	氏　名	所属団体等	地区
1	会　長	1名	鈴木　定夫	２号委員	寺内
2	副会長	2名	吉田　嘉浩	谷中　７年度区長（瑞穂地区区長会長）	谷中
3			鴇崎　清治	鴇崎区防犯パトロール隊	鴇崎
4	事務局長	1名	加瀬　栄	２号委員	谷中
兼	会　計	1名	（加瀬　栄）	２号委員	谷中
5	監　査	2名	佐々木　竹彦	２号委員	みずほ台
6			鴇崎　恒雄	交通安全協会瑞穂支部長	寺内
7	理　事	20名	木内　利明	堀之内区　７年度区長	堀之内
			（吉田嘉浩）	谷中区　７年度区長	谷中
8			細川　正雄	寺内区　７年度区長	寺内
9			中田　肇	寺内芝区　７年度区長	寺内芝
10			鴇崎　康一	鴇崎区　７年度区長	鴇崎
11			鈴木　敏信	西和田区　７年度区長	西和田
12			飯嶋　秀和	西坂区　７年度区長	西坂
			飯塚　勝男	西部田区　７年度区長	西部田
13			柳田　恵司	みずほ台自治会　７年度区長	みずほ台
14			齋賀　宗純	民生委員・児童委員	寺内
15			一鍬田　信吉	民生委員・児童委員	西和田
16			山形　陽子	主任児童委員	みずほ台
17			福迫　勝弘	青少年相談員	みずほ台
18			林　藍	瑞穂小学校PTA会長	寺内
19			（細川正雄）	香取市消防団佐原第１支団 支団長	寺内
20			栗林　利男	みずほ広域保全会西和田地区長	西和田
	相談役	1名	飯島　健	規約第８条による	西坂

目次

● 総会の開催　● 役員名簿 …… P1
● 瑞穂地区のまちづくり調査に学生達がやってきた …… P2・P3
● 自主防災組織の結成 …… P4
● 瑞穂の歴史 その１３～豪族屋敷村としての堀之内～ …… P4

瑞穂地区のまちづくり調査に学生達がやってきた

香取市は、令和６年度から「スローシティ」推進事業を進めております。「スローシティ」とはイタリヤが発祥の地で、国際的なネットワーク「スローシティ国際連盟」では「スローシティ」の認証制度を設けていて、２０２５年１月２７日時点で世界３３ヵ国３０３都市が、そのうち日本では気仙沼市・前橋市が認定、連盟に加盟しております。

香取市では全国で３例目の認定を目指しており、慶應義塾大学ＳＦＣ研究所と連携して市内各所を対象に大学生によるソトからの視点で、地域の特色ある資源（歴史・文化・食など）を再発見して、「地域への誇りと愛着」を育む取り組みを進めております。

この取り組みに対し、調査研究対象候補地に瑞穂地区が選ばれました。受け入れに当たっては瑞穂まちづくり協議会が窓口になり、地域振興部会（部会長：鴇崎清治）が歴史・再生・連携をキーワードとして今回の企画・対応にあたりました。

普段生活していると何もないような当地区と思われがちですが、下記のような日程で２日間かけ地域を案内し、テレビや新聞の取材も入るなど、学生達や関係者に当地を強く印象付けることができました。

今回の訪問で、瑞穂地区の歴史ある地域資源を活かし、ＮＰＯ団体が里地・里山を地域の憩いの場として再生させた取り組みや、新たなビジネスとして空き家となっていた農村古民家を再生し、カフェや民泊施設などに利活用している案件を紹介し、このようなスローライフの事例が、今般香取市が進める「スローシティ」認定の一助になれば幸いです。

また、今後は、これを機会に一層、瑞穂まちづくり協議会と地区内の多様な団体・ビジネスが連携・融合し、これまで以上に地域力を高め、当会のテーマ「誰もが生涯安心して生活でき、心豊かな瑞穂の郷づくり」を目指していきたいと考えています。

《令和６年１２月２２日》

１０時３０分 ➡「西坂神社」駐車場集合、鴇崎すみ江宮司さんが芋から育てた手造りの味噌コンニャクを試食 ➡ 次に四季折々の花々が咲きウォーキングに最適な里山「令和の杜」では飯田伸治さんが採土跡地や周辺放置林の再生について説明。又、熱々の焼き芋を食べ自然を満喫 ➡ 昼食は堀之内に開店した藤崎美希さん経営の「古民家カフェＫＡＯ」でパスタとシフォンケーキを食べ和気あいあい。

➡ 午後は谷中にある北海道から移住し丹野かすみさんが経営するリノベーションした「古民家宿ねこざえもん奥屋敷」を見学 ➡ その後、同谷中地区にある、池とスイセン・河津桜・彼岸花が見事な「大須賀川河童会」が、以前ゴミの投棄場所と化していた場所を２０年間かけて整備した「かっぱ緑地」を散策して1日目は終了。

《令和７年２月６日》

午後１時西坂神社集合 ➡ 再度「令和の杜」に行き、飯田伸治さん、学生達と鈴木定夫会長らが桜・モミジの記念植樹並びに剪定枝を使用して鳥の巣状の土台を作り、そこに落ち葉や刈り草などをため堆肥にする（バイオネスト）炭素循環里山について体験 ➡ その後、谷中地区に東京から移住し、有機農業を営む丸子晴三宅「よろずやさんまるこ」で自家栽培した小麦粉を使った、窯で焼いたピザを試食。 ➡ さらに、「みずほふれあいセンター調理室」で食育健康推進員の伊藤はつ子さん指導のもと郷土食太巻き寿司の調理体験 ➡ 終了後、学生達は谷中の「古民家宿ねこざえもん奥屋敷」 に２泊。

御協力いただきました皆様方ありがとうございました。

▲ 堀之内の古民家カフェ『KAO』で昼食

▲ 谷中の古民家宿
『**ねこざえもん奥屋敷**』に宿泊

▲ 大須賀川『**かっぱ緑地**』の見学

▲ 『**令和の杜**』でモミジを植樹

▲『**バイオネスト**』
鳥の巣状の堆肥づくり

▲ 桜を植えてマザーツリー
（母なる木）へと成長を願う

▲ 山紫水明の地を背景に記念撮影

▲ 丸子宅で全粒粉を
使ってのピザ生地づくり

▲ 丸子晴三さんから指導を受ける

▲ 伊藤はつ子さんから
太巻き寿司の指導を受ける

▲ 太巻き寿司を実際に作ってみる

▲完成した太巻き寿司を両手に記念写真！

▲ 研究グループの皆さん（市広報紙から）

鴇崎区で自主防災組織を結成しました。

紹介が遅れましたが、令和元年１１月３日、鴇崎区に自主防災組織（会長：明石　章、副会長：鴇崎康一・秋葉　正・北崎　稔）が結成されました。今、現在瑞穂地区内では、みずほ台・寺内芝・西和田に次ぐ４番目のものです。

大規模な地震や台風も大型化している今日、地域が助け合って災害に対応することが非常に重要になっております。

そのためには、事前防災として日ごろから、情報やその伝達、避難誘導、救出、救護、給食、給水などの様々な状況を想定しておかなければなりません。

なお、自主防災組織が結成されますと、香取市（総務課）から総額２０万円の範囲内で防災用資機材が支給されます。

令和6年12月21日星宮神社

瑞穂の歴史　その13～豪族屋敷村としての堀之内～

『佐原市史』では、堀之内について中世の「豪族屋敷村では」としています。そこで、『瑞穂郷土史』作成においても検討を重ねました。学問的にも「堀の内」は周囲に堀をめぐらした武士の居館という狭義の見解から、垣根をめぐらしたものや、開墾というエリアを画する村型の堀之内もあるという説もあります。

まずは、単純に隣村に寺内があるので、それと同じように附したという見方です。では、実際に堀はあったのかいうと、今は道路になっているが、昔、旧農協瑞穂支所から堀之内郵便局まで幅２～３メートルの「ひしがん堀」あったという話があります。また、延宝６年(1678)検地帳には「谷堀」「喧嘩堀」という地名が出てきます。このようなことから村名は堀との関係がありそうです。

堀之内の集落の特徴は八幡神社を村の中央にして道はクランク状になっており、単なる自然集落ではなく要害性や計画性の高い村落配置に感じられます。また、後背の台地「要害城址」について、大正期の『瑞穂村誌』には「西部田区字要害にありて、堀之内区字館の臺に跨り、地勢高く眺望佳絶なり。四方には、今尚空湟の跡を存せり。城主不詳」としています。この砦は、西部田、堀之内の両村落を守るための最後の砦として、構築したと思われます。

その中心に位置したのが要害城址の麓に広い屋敷地字「内殿」で、千葉一族の月星と九曜紋を家紋に持つ、木内治部左衛門家を中心としたエリアではなかろうか。同家の周囲には観音寺や福智院（廃寺）、薬師・地蔵堂が配置され、豪族屋敷村的な景観を呈しています。同家木内氏は、堀之内村（郷）の「草分け的」存在で、中世には千葉一族の木内氏を娘婿として迎え入れ、その名字を名乗ってきたことは当会報その７（木内氏の名跡を継ぐ）で既述のとおりであり、その他の土豪層のほか、自らの周辺における一族や、一般農民をそのまま豪族屋敷村として包摂し、堀之内と呼ばれるようになったと思われます。

なお、堀之内が大戸神社（大戸庄の総鎮守）や、西坂神社（鴇崎郷の総鎮守）に属さず、八幡神社を鎮守としていることは、堀之内村（郷）という自立した惣的村落の姿を何より物語っているのではないでしょうか。

（参考文献『新編郷土史字典』（集落・惣）大塚史学会編／1969年１月）

問合せ連絡先　佐原市民活動支援センター　電話 50-1213　FAX 54-7708
E-mail casc.sa@city.katori.lg.jp